

月刊島民

中之島

Vol.65 2018 12月

©iPadサウス(と、ほろり)

橋を渡る人の「街事情マガジン」

御堂筋を
歩け!



ナカノシマ大学

「バッキー井上の
酒場アンソロジー」&
「中之島から、
大阪のデザインを見直す」
申し込み受付中!

を歩け!

MIDOSUJI PROJECT 01

あれこれ議論が進むバージョンアップ作戦。
御堂筋で何が行われようとしているのか。

取材：文／松本 創（本誌）

「動く広告」ができるかも？

夜や休日にもぎわう通りに？

御堂筋の「改造計画」が今、さまざま角度から話し合われている。

大阪を代表するオフィス街の風格、スカイラインと壁面が揃う整然とした街並み、数々のヒット曲に歌われたイチヨウ並木……といった美観は保ちつつ、企業がもつと立地しやすく、店舗や商業施設も進出しやすく、新たなにぎわいが生まれるような将来像を大阪市や沿道の企業が模索しているのだ。

背景には、バブル崩壊後の20年が進んだ金融機関の統廃合や企業の東京流出、それに、梅田や中之島、阿倍野などで進む大規模開発やオフィスビルの充実により、御堂筋の地位が相対的に低下してきた現状がある。

いわば「御堂筋バージョンアップ作戦」。イルミネーションだけじゃない、真の輝きを大阪のメインストリートは取り戻せるだろうか。

ビルの高さ規制、見直します。

昭和の時代、淀屋橋〜本町間には高さ百尺＝31mのビルが軒を連ねた。大正時代の「百尺規制」が戦後も長く継承された御堂筋で、企業が競って限度一杯のビルを建てたからだ。スカイラ

インの揃った街並みは、昭和の大阪経済の勢いによって結果的に作り出されたのだった。

平成に入ると、沿道企業の要望もあって大阪市は高さ規制を緩和。淀屋橋〜本町間では、低層部で50m、壁面を後退させた高層部を含めれば最大60mが基準になった。最近では、淀屋橋odona（70m）、本町ガーデンシティ（140m）のように、低層部は50mに抑えつつ、立地条件によってさらに高層化が認められた例もある。

しかし、全体的に見れば、御堂筋のビル建て替えは進んでいない。淀屋橋〜本町間の43棟のうち、26棟が1970年代以前の築だ。高さ規制が足かせとなり、時代に対応した高規格ビルが建てられないのが最大の理由とみられている。

そこで出てきたのが、新たな規制緩和案。大阪市都市計画審議会専門部会の報告書によれば、低層部の50m制限は維持するが、ビル全体の高さは「50m＋高層部の壁面後退距離」の2倍まで許可する。壁面を20m後退させた場合、高さ140mまで可能になる。容積率も1300%まで拡大する……とい



超高層のビルが建つ?

地下鉄よりずっと深いトンネル?



50mにスカイラインを改めた1995年から18年。現在は31mと50mのラインが混在する。超高層化時代が来れば、御堂筋の広い空はどう変わる?

「商う」「住む」も進めます。

用途の問題もある。同じく淀屋橋、本町間では、ビルの1〜2階に「上質感のある」飲食店やショールーム、文化施設の誘致を目指す。就業時間後や土日にも人が集まる場を作るのが狙いだ。淀屋橋odonaや、伝統工芸のギャラリーが期間限定出店した本町ガーデンシティ(P6)がモデルケース

う内容。これを反映した地区計画が来年度にも動き出す見通しだ。「路上から見た景観の統一性は守りながら、建て替えを進めるのが目的。実際に変化が現れるのは3〜5年後でしようか」と大阪市都市景観担当は話す。

になるという。

さらに、本町の中央大通り長堀通間では「住む」機能を取り入れる意向。これまでも明確に禁じていたわけではないが、あくまでオフィス街としての地区計画に基づく紳士協定があった。これを取り払い、ビルの上から3分の1に限り、賃貸物件の同居を進めようという案だ。

といっても、そこは御堂筋。「グレード感のある高級賃貸レジデンス」「ウィークリーマンションや長期滞在型ホテルなどビジネスサポート的なもの」が想定されている。

広告や側道も検討課題です。

ほかにも、ビル広告の規制を緩和して映像モニターなど「動く広告」も可能にする▽緩速車線(側道)を廃止して自転車レーンとし、緑化を進める：といった案が検討され、一部では実験も始まっている。

いずれもまだ正式決定ではなく、市民の間には「御堂筋らしさが損なわれる」「そう度々、基準を変更しているのか」という異論もある。また、これらが実現したからといって、御堂筋が「復権」できるかどうかは未知数だ。

ただ、これほど議論が百出するのも「やっぱり御堂筋は大阪市民にとって特別な場所」(前述・大阪市都市景観担当)だからなのだろう。

MIDOSUJI PROJECT 02

地下鉄よりも深い、地下35mで見た深層風景。
人知れず建設が進む「御堂筋共同溝」って何だ？

取材文／松本創（本誌）



路線延長4022m

トンネル外径5.07m／
内径4.77m

1500mm水道管と
電気ケーブルを収容

御堂筋の地下深く、巨大トンネルの建設現場に潜入し、人知れぬ街の闇を往く……。まるで中之島の対岸に建つ銀行から金塊を盗み出す高村薫のクラム・イムノベル『黄金を抱いて翔べ』のようなアンダーグラウンドツアーの入口は、御堂筋と四ツ橋筋が合流する難波の交差点にあった。現場の正式名称は「国道25号御堂筋共同溝立坑工事」。国土交通省近畿地方整備局の大阪国道事務所が所管している。

同整備局が今秋、近畿各地の道路・港湾・河川などで始めた「魅せる！現場」見学会で一番人気を誇るのが、この御堂筋地下探索。さすが知名度抜群なのだ。

共同溝とは都市直下に張り巡らされたインフラの通り道。その出入口を立坑という。御堂筋共同溝は、難波元町から梅田新道まで約4 km。7つの立坑を備え、2017年に完成の予定。電気ケーブルと直径1500 mmの水道管が通ることになっている。

レール沿いに北へ向かえば…。

秘密基地の入口のような直径18 mもの立坑を工事用リフトで下り、地下35

Key Point

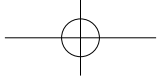
「魅せる！現場」見学会とは？

国土交通省近畿地方整備局が所管する工事現場や施設の見学会。対象は、橋や高速道路、水路トンネル、堤防など約30カ所。参加は原則10人以上の団体で。問い合わせ・申し込みは近畿地方整備局 ☎06-6942-1141 かHPで。
<http://www.kkr.mlit.go.jp/plan/genbakengaku/>

「共同溝」の役割。

共同溝は、道路の有効利用や災害対策を目的に、通信・電気ケーブル、上下水道管やガス管などのインフラ網を地下に収容する施設。整備には2社以上の申請が必要。近畿整備局では5路線で計38.9kmを既に完成させている。立坑は主に保守点検用の出入口で、完成後は普通のマンホールとなる。

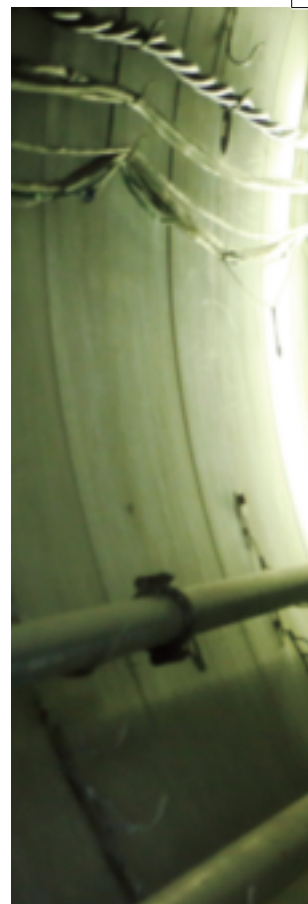




mに降り立つ。見上げれば、四角く切り取られた雨空が心なしか遠い。案内役の現場監督が「地下鉄御堂筋線が深さ10mなので、その3倍強です」と教えてくれた。土佐堀川や堂島川は？と聞けば、「川底は10m未満ですから工事に影響はないですね。ちなみに、京阪電車中之島線で最も深いなにわ橋駅が同じく35mである。

足下のレールを頼りに、北へ歩く。天井高約5m。白っぽく滑らかなコンクリート壁に囲まれた空間は無機質な印象だが、所々で目に入る道具類は泥と錆をまとい、土木工事のダイナミズムを伝える。資材や掘った土を運ぶ鉄の貨車「バッテリーロコ」。ずらりと並ぶクレーンのフック。年季の入った種々の工具。作業員が現場の行き来に使う自転車…。

「作業員は1チーム10人。日中と深夜の2交代ですが、大規模な資材搬入や、地上でクレーンを使う作業はすべて深夜。交通への影響を最小限に抑えるためです」と現場監督。国道事務所の担当者は「最も注意を払うのは掘り始めですね。調査は尽くしますが、想



千日前通付近の「EB1分岐立坑」。これですべての立坑が貫通。中之島付近では、淀屋橋に「EB6分岐立坑」、北新地駅付近に「梅新立坑」がある。

定外の土質だったり、未知の遺構が出てきたりすることもあり得ますから」と言う。

街なかの工事、しかも大阪一のメインストリートとなれば、安全性はもちろん、市民生活や環境に何重もの配慮が求められる。

「上に掘る」画期的技術。

10分ほど歩くと、行く手を阻むように赤茶けた金属の太い柱が現れた。千

日前通付近の立坑工事現場だ。この柱の内部を掘削機「シールドマシン」が上向きに掘り進んでゆく。ちょうど前日に地上へ到達し、御堂筋に顔を出したばかり。暗い穴を覗いてみれば湿った土と金属がひんやりにおう。

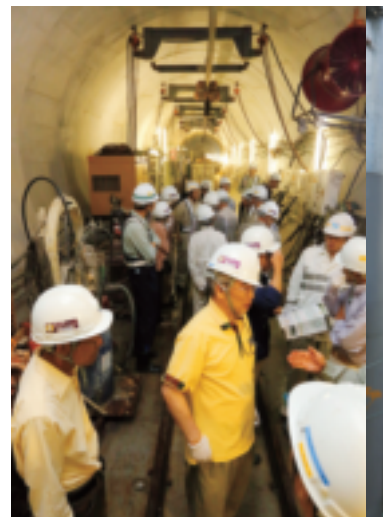
聞けば、上向きシールド工法はまだ珍しく、この現場が国内5例目だという。現場の人たちは「地下作業が中心なので道路占有期間を短縮できるのが最大の利点。掘った土も地下で運べますしね」と、どこか誇らしげだ。

1日最大3万8000台、2万6000人が行き交う御堂筋の直下で、今日も人知れず細心の作業が続く。そこに「黄金」はなかったが、土木技術者たちの誇りが鈍色の輝きを放っていた。



工事用リフトが降りてくる光景は近未来SFのよう。だが、歩いてみれば、なじみの道路表識や工具類。ハイテク技術とアナログな手触りが混じり合う地下世界。

この日ツアーに参加していたのは、京都の高校OBでつくる「歩こう会」の面々。「京都や大阪、奈良…関西一円から楽しみに集まりました」とのこと。





Concert

まちづくりネットワーク主催の「御堂筋オータムフェスタ」も同時開催。ビルのパブリックスペースでミニコンサートが行われた。



Wine & Deli

御堂筋沿いのオフィスビル前にオープンテラスが出現。北浜に本店のあるパティスリー「五感」のスペシャルメニューなども登場。

MIDOSUJI PROJECT 03

「オフィス街のピクニック」は、 将来の御堂筋の姿を先取りしたのか。

取材文／大迫力（本誌）

この秋初めて行われた、 「御堂筋ピクニック」。

この秋、これまでにはなかった新しい試みが御堂筋で始まった。コンサートやマルシェ、期間限定ショップなどいくつかのイベントが一体となった「御堂筋ピクニック」だ。

例えば、「御堂筋Wine & Deli」。オフィスビルの前にキッチンカーとテーブルが登場し、ワインやコーヒー、スイーツなどが楽しめるのと同時に、ウクレレやトロンボーンコンサートも開かれた。いつもの通勤路に突然現れたにぎやかな「オープンテラス」は、あいにくの天気にもかかわらず会社帰りの人たちに大好評だった。

これまで御堂筋の沿道では、たとえビルが所有権を持つパブリックスペースでも、人の往来のある場所に長時間車を停めたり、テーブルを置いたりすることは大阪市との取り決め上、困難だった。今後こうした規制を緩和していくための実証事業として、今回のイベントが実現したわけだ。

この他にも、本町ガーデんシティー階に奈良晒の老舗「中川政七商店」が

プロデュースする「につばん工芸パビリオン」が1ヶ月にわたって出店。日本各地の伝統工芸品が並ぶと共に、毎週金曜日にはクリエイターによる交替わりのトークショーも行われた。

今や御堂筋の名物行事とも言える淀屋橋odona前の「大阪マルシェほんまもん」も、この期間に合わせてふだんよりお洒落にデザインアップして開催された。いずれも今までの御堂筋には見られない風景ばかりだ。

「地元企業」が 積極的に関わる。

その一翼を担ったのが、沿道企業など29の団体が構成される「御堂筋まちづくりネットワーク」だった。大阪ガスを代表幹事会社とし、竹中工務店が事務局を務める組織で、地権者の考え（つまり「地元の声」）を行政など対外的に発信したり、沿道を使った催しの企画を行う。2001年に発足して以降、少しずつ会員を増やし、「御堂筋ギャラリイ」という春と秋の恒例イベントも、おなじみの年中行事となりつつある。

今回行われた中でも「御堂筋Wine



Marche



毎週水曜日に淀屋橋odona前で開かれるファーマーズマーケット「大阪マルシェ ほんまもん」も同時開催。多くの人を集めた。

実はけっこうイベント三昧だった！

御堂筋カレンダー

- 1月 ●大阪国際女子マラソン(下旬)
- 4月 ●北御堂 花まつり(第1土曜)
- 5月 ●御堂筋フェスタ&kappo(上旬)
●御堂筋スプリングギャラリー(下旬／約2週間)
- 7月 ●御霊神社 夏祭り船渡御・船場武者講行列(中旬)
●天神祭
- 8月 ●北御堂盆踊り(下旬)
- 9月 ●大阪クラシック(初旬／1週間)
- 10月 ●大阪マラソン(下旬)
●ハードロックカフェOSAKA「ハロウィーンパーティ」
- 11月 ●神農祭(11月下旬)
●御堂筋オータムギャラリー(10月下旬から11月上旬)
- 12月 ●大阪・光の饗宴 御堂筋イルミネーション(12月初旬から1月中旬)
●北御堂 餅つき大会(下旬)
●北御堂 除夜の鐘の集い(大晦日)

◎定期イベント

- 毎月1回 ●北御堂相愛コンサート(北御堂本堂)
- 毎週水曜日 ●大阪マルシェほんまもん(淀屋橋odona前)

Pavilion



「にっぽん工芸パビリオン」のトークショー。10月11日には中之島に拠点を持つ[graf]の服部滋樹さんも出演し、「ものづくり」をテーマに[中川政七商店]代表の中川淳氏と語り合った。

「& Deli」には特に強い思いがあった。平成7年(1995)の高さ規制緩和以降、ビルを建て替える場合は敷地境界から4m下がりが、歩行者のための空間を確保することになった。同ネットワークでは、その空間を沿道のにぎわいづくりのために活かせないかと大阪市と一緒にトライアルを重ねてきた。それが大きく目に見える形になったのが、今回だったというわけだ。

事務局を務める竹中工務店の大西正英さんはこのようにふり返る。

「感想を聞くと、期待して来られた方にとってはちょっと物足りなかったようです。反対に、たまたま通りかかった方は『面白いことをやってるな』『もっとやってほしい』という反応でした。大々的に謳ってお客さんに来て

いた多くには、それなりの用意が必要。具体的には灯りやBGMですね。普段は別の仕事をしている会社員がやっているの、なかなかそこまで気がつかない。ただ、何が必要か見えてきたのは大きかったです」

同ネットワークでは、こうした動きを日常的なものにしていきたいと考えている。「イベントで定期的にやっているだけでは長続きしない。沿道に常設のオープンテラスが出て毎晩にぎわっている…。遠い将来ではなく、数年後に実現できれば」と大西さんは話す。

御堂筋を舞台にした大々的なイベントはこれまでもあった。しかし、今回の「御堂筋ビクニック」がそれらと違うとすれば、現状に危機感を抱く沿道の企業やビルが積極的に関わり、「エリア」として御堂筋を盛り上げようとしているところではないか。御堂筋らしさというものがどのように形づくられていくのか、楽しみにしたい。



御堂筋まちづくりネットワークの事務局を担当する竹中工務店の大西正英さん。少しずつ街に変化が現れてきたことを実感しているようだ。

1920—2010

御堂筋開発史

文／大迫力(本誌)
参考／御堂筋まちづくりネットワーク
ホームページ内「御堂筋の歴史」



拡張前の御堂筋。信じられないくらい狭い。写真提供／大阪歴史博物館

そもそもなんで御堂筋？



今や大阪のメインストリートたる御堂筋だが、意外や明治時代に入っても、幅**3.3間(約6m)**ほどの狭い道路だった。通り沿いには問屋も多く並び、それなりの賑わいもあったようだが、今は比べるべくもない。ところで、名前にある「御堂」とは、16世紀末に創建された北御堂(本願寺津村別院)と南御堂(難波別院)に由来している。どちらも壮大な建物を誇り、市中でも群を抜いていた。江戸時代の商人たちは、この「御堂さん」の鐘が鳴る音を聞きたいと、こぞって船場に来て来たという。

『浪花百景』より「兩本願寺」(大阪府立中之島図書館蔵)

北と南の本願寺を1枚の絵にしたもの。実際の風景とは異なるだろうが、それだけ御堂の存在感が大きかったとも言える。

【準備期】ヨコからタテへ、交通の主役交代。

舟運の発達していた大阪では、大阪城から海へと向かう軸線が強く、東西に走る「通り」が長らく交通の中心だった。しかし、梅田と難波に鉄道駅ができると南北の「筋」の必要性が高まる。大正10年(1921)、当時の關一大阪市長は大規模な都市計画事業を打ち出し、地下鉄や橋などインフラ整備に取りかかる。中でも御堂筋の建設は、自らの進めるシテイプランニングのシンボルとすべく力を注いだと言われる。

【開発期】一気に10倍！メインストリート誕生。

昭和5年(1930)、御堂筋の拡張工事が着工される。一気に10倍以上の大拡張で、その幅なんと44m。電柱は完全地中化し、地下鉄の開発も同時に行うという当時では類を見ない大工事だった。地盤が軟弱だったためこともあって工事は難航を極めたが、7年後の昭和12年(1937)にようやく完成。4列のイチョウ並木が植えられ、歩行者のための空間も広々。まさしく生まれ変わった。ちなみに、よく知られる「百尺規制」(P2)はこの頃からすでに設けられている。



地下鉄工事の様子(上)と拡張後の様子(下)。御堂筋の誕生は、その工事中から「名所」として絵葉書になった。写真提供／大阪市立中央図書館

【発展期】みるみる復興。交通のカナメに。

戦時中は軍道として使用され、空襲による被害もあったものの、奇跡的に道も地下鉄も街路樹も無事だった御堂筋は、高度経済成長期の1960年代にかけてビルの建設ラッシュを迎える。昭和45年(1970)の大阪万博開催時には新御堂筋が完成。また、交通量の増加に伴って南向き一方通行となり(界筋は北向き一方通行に)、交通の要としての重要性を増していく。



昭和40年(1965)、本町3丁目交差点を望む。右手前はこの年竣工の御堂ビル。写真提供／大阪歴史博物館





東芝大阪ビルに入るスターバックスは、風景が変わる先駆けだった。

スーパーの他にもドラッグストアができた、マルシェが行われたり、住む人の気配も込み始めた。

そう言えば、少し前に赤いドレスを着せられたこともあったなあ。



御堂筋パレード。写真は最後に行われた2007年のもの。写真提供／関西・大阪21世紀協会



「変貌期」生活感もじわり。御堂筋はどうなる？

2010年、「KOHYO」の出店は、「御堂筋にスーパーが」と界限で働く人々を驚かせた。しかし、昼時のお弁当や帰宅前に夕食の食材を買って帰れたり、何かと便利ですっかり定着。御堂筋から少し入った場所にタワーマンションが次々と建てられ、人が「生活」する場所になってきたことも影響しているだろう。また、淀屋橋odona（2008年、本町ガーデンシティ（2010年）と、オフィスビルが、グルメやファッションの商業テナントを抱えた複合ビルとして生まれ変わった。働くだけでなく、生活や遊びを楽しむエリアへの変貌は着実に進みつつある。

長らくビジネス一色だった沿道に変化が現れ始めるのがこの頃。東芝大阪ビルに「スターバックス」が、中央大通との交差点に「ハードロックカフェ」が2000年代初頭に開店すると、少しずつオフィス以外のテナントが目につくように。特に多いのはセルフ系のカフェで、多くのフランチャイズが店する激戦区に。

「胎動期」少しずつ、沿道に変化の波。

平成4年（1992）、沿道企業の寄付により、29体の彫刻作品が設置される。交通の要からビジネスの中心へ、そして文化の香りも漂うまさにメインストリートとなった御堂筋だが、1990年代半ば以降から日本経済が不況へ突入すると、沿道ビルの1階から金融機関が抜け始める。平成7年（1995）に従来の高さ規制が緩和されたのは、御堂筋再生を意図したものであった。

「下降期」バブル崩壊…企業流出が相次ぐ。

御堂筋には多くの金融機関が集まっていたが、1980年代にそのピークを迎える。特に淀屋橋、本町間には都市銀行や地方銀行の本店が出店し、関西一のビジネスゾーンと呼ばれ、ここにオフィスを構えることはステータスだった。また、昭和58年（1983）に御堂筋パレード、大阪国際女子マラソンが始まると、国内だけでなく、御堂筋を世界にアピールしようという動きが活発になっていった。

「アピール期」マラソン、パレードで世界へ発信。

忘れられない御堂筋の「おもひで」。

明治時代に、御霊神社のすぐ近くで祖父が「現長」という鰻の店を始めました。その後、御堂筋が拡張されると、これからいっそう賑わうだろうという期待をこめて、今の大阪ガスビルより少し南、御堂筋に面した店舗に移ってきたそうです。私が生まれたのは昭和10年（1935）。物心ついた頃には新しい店構えで、遊び場といえば広くなった御堂筋。現在に比べると、イチヨウの樹はまだひょろりと細かったな（笑）

広い筋からひょいっと路地に入れば、御霊神社周辺は食べもの屋や民家がひしめき合っていて、キャバレーやカフェもありました。参拝客以外にも「ちょっと飲んで帰るか」と訪れる会社員が多かった。ガスビルで遊んだ帰りには、広くなった道に将棋盤を出して談笑したり、夕涼みする人々を見かけるのが当時の日常でした。

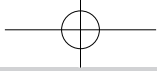
忘れられないのは空襲明けの3月14日、防空壕から頭を出して見た、焼けた御堂筋。道を往くのは、風呂敷を抱えて大阪駅へ向かう戦災者たち。父は空襲に備えて、創業時から受け継いだタレを2つの壺に分けて入れ、片方をグリーンベルトの防空壕に保管しました。「店が焼けても、タレさえあればなんぼでもやり直せる」。父の機転と御堂筋のおかげで、命に等しく大切なタレは、戦争を生き延びることができました。



西橋 健さん
2008年まで道修町に店を構えていた、老舗鰻屋「現長」の3代目。



昭和8年（1933）、大阪ガスビルディング竣工時の写真。写真左端には御堂筋沿いにあった頃の「現長」が見えている。確かにイチヨウの樹は細い。写真提供／西橋健氏



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

2014年1月講座

「バックキー井上の 酒場アンソロジー」

講師／バックキー井上
(酒場ライター／[錦・高倉屋]店主)
石原 卓 (月刊島民編集部)

日本初の酒場ライターこと
バックキー井上さんが大阪へ。
北新地の現役バーテンダーと共に、
「バックキー節」を聞いてみよう。

京都・錦市場の漬物店 [錦・高倉屋]
のバックキー井上さんと言えば、月刊島民
にもたびたび登場。京阪電車ファンとし
ても知られている。また、『Meets Regi
onal』や『dancyu』などの雑誌では日本
初の酒場ライターとして、記憶に残る
数々の名フレーズを毎夜生み出している。

今回はそんなバックキーさんが大阪へ。
ずばり、酒にまつわる話をたっぷり聞か
せてもらいたい。せっかくなので北新地
の店で働く現役バーテンダーの方にもご
登場いただき、マティーニやギムレット
などの作り方を実演してもらう。トーク
の相手は月刊島民編集部でバー経営の経
験もある石原卓。酒をめぐる愉快的会と
なりそう。

酒の味や飲み方、店との付き合い方な
ど、特に若い年代の人たちにおすすめし
たい、バックキー流・街での遊び方を指南
します！

◎今月の授業①

【酒と店】

バックキー井上は
何を考えているのか？

募 集 要 項	「バックキー井上の酒場アンソロジー」	お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もし くはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスに ついては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してく ださい。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え 下さい。 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 「ナカノシマ大学1月講座①」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。 ※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。
	日時／2014年1月18日(土)	
	3:00PM～5:00PM頃(開場2:30PM～)	
	会場／芝川ビル モダンテラス	
	受講料／1,800円	
	定員／50名(※20歳以下の方のお申し込みはできません)	
	主催／ナカノシマ大学事務局	
	協力／ミシマ社	

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ
☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

間宮吉彦の「間」を
体感しつつ!

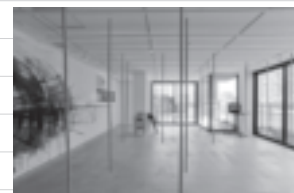


「中之島ダイビル」2階テラス。2009年

写真/平野 愛



[BAR BANKS]2012年



「中之島バンクスの[de sign de >]2011年

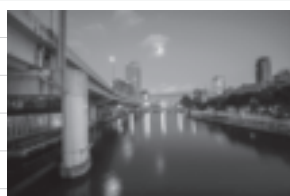
◎今月の授業②

【空間デザイン】

2014年1月講座

「中之島から、大阪のデザインを見直す」

講師/間宮吉彦(空間デザイナー)



12月オープン予定の「中之島ラブ セントラル」
(左側)



代表作の一つ「ミューゼ」1998年

「間宮デザイン」のリバーサイド空間で
「大阪はデザインで面白くなる」を考える。

ここ数年で島民にすっかりおなじみとなった風景といえば、堂島川沿いの遊歩道に建つ「中之島バンクスの黒い箱や、「中之島ダイビル」のゆったりくつろげるパブリックスペースだ。

両者を設計した間宮吉彦氏は、1980年代から鰻谷の「マーブル」(85年)やなんばの「QOO」(91年)、堀江の「ミューゼ」

(98年)、神戸・旧居留地の「E.H BANK」(01年)、法善寺の「正弁丹吾亭」(03年)など「街の顔」となる店を次々とデザインし、最近では「あべのハルカス近鉄本店」の環境デザインや堂島川北岸の「中之島にぎわいの森プロジェクト」などを手がけ、30年間一貫して「人があつまる空間」をつくりつづけている。

東京、上海などの物件も手がける間宮氏がなぜ一貫して拠点を大阪に置くか。そこに「大阪はデザインで再生できる」という思いがある。30年間の仕事を1冊に記した『間宮吉彦の「間」——店＝街の空間デザイン録』(140B・12月上旬発売)を手がかりに、「大阪リ・デザイン」の可能性を語っていただきます。

「中之島から、大阪のデザインを見直す」

日時/2014年1月31日(金)

7:00PM~8:30PM(開場6:30PM~)

会場/中之島バンクスの Saint-Louis Amuse

受講料/1,500円(1ドリンク付き) ※『間宮吉彦の「間」——店＝街の空間デザイン録』(本体2,000円)の購入とセットで3,300円

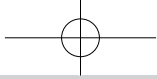
定員/70名

主催/ナカノシマ大学事務局 協力/アミューズ中之島

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学1月講座②」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。



2013

『ブラック・ジャックは遠かった
～阪大医学生ふらふら青春記～』久坂部 羊
(1,400円+税)

月刊島民に40回にわたって連載された「中之島ふらふら青春記」の単行本化。医療ミステリーの名手である著者が、かつて中之島にあった大阪大学医学部に通っていた頃の思い出を綴った青春エッセイ。小説ではシリアスな内容が多い中、打って変わってふらふらと遊び回っていた学生時代のエピソードは爆笑すること請け合い。と思えば、純粋な青年であったからこそ見える医療の問題点にはっとさせられることも。ナカノシマ大学として開催された仲野徹阪大教授との同級生対談も収録。



2013

『大阪古地図パラダイス』
本渡 章
(1,900円+税)

こちらもナカノシマ大学の人気シリーズ講座の書籍化。大阪の古地図スペシャリストである作家・本渡章さんが、とにかく見て楽しい想像が膨らむ古地図をセレクト。江戸時代から明治～大正と時代を経る中で、大阪の地図はどのように変わってきたのか。そこから読み取れる時代性とはどんなものだろうか。大阪だけでなく、京都や江戸の古地図も多数カラーで掲載。巻末には付録として吉田初三郎の『大阪府鳥瞰図』をほぼ実寸大で収録しており、見ごたえもたっぷり。

今年でついに創刊から5周年を迎えた『月刊島民』。2009年から毎月開催しているナカノシマ大学での講座も合わせると、これまでに4冊が本となって出版されています。どれも大阪の街のことがよくわかる本ばかり。島民&ナカノシマ大学ファンのみなさんは必読です！
◎お求めはお近くの書店やナカノシマ大学の会場で！

月刊島民&ナカノシマ大学 生まれの本



2010

『おせっかい教育論』
鷺田清一・内田 樹・釈 徹宗・平松邦夫
(1,200円+税)

2009年10月1日、ナカノシマ大学の記念すべきキックオフセミナー「21世紀は街場で学べ！」に豪華な面々が顔を揃えた。当時、鷺田氏は阪大総長、平松氏は大阪市長であったこともあり、メディアも大注目。500人を超える聴衆が大阪市中央公会堂の大集会室に集った。その内容を中心に、教育問題から日本の現代社会の歪みを見通そうとしたのが本書。4人の書き下ろし原稿もあり、発売から3年経った今なおリーダブル。それが4人の思考の射程の長さを示している。



2012

『大阪の神さん仏さん』
釈 徹宗・高島幸次
(1,500円+税)

ナカノシマ大学のシリーズとして全5回開催された対談講座が1冊の本に。お寺に神社と言えば京都…というのが常識と思いきや、大阪が古代から宗教と密接に結びついてきた都市であることを明らかにしている。住吉大社、四天王寺、生國魂神社、大阪天満宮など、おなじみの神さん・仏さんとの関係から大阪の歴史を読み直す。同時に、神道と仏教の基本的な知識も一緒に語られており、入門書としても読める。朝日新聞の書評では中島岳志氏を「目から鱗の一冊」と唸らせた。

2014年1月2日(木)より[ジュンク堂書店 大阪本店]にて『月刊島民』生まれの本&バックナンバーフェア開催！

このページでご紹介している月刊島民やナカノシマ大学生まれの本をゆっくり見られる絶好の機会です。バックナンバー(無料配布)は品切御免の早い者勝ち！

会場/ジュンク堂書店 大阪本店 2階 期間/2014年1月2日(木)から約1ヶ月 ☎06-4799-1090

うまさぎっしり新潟



関西人のための

「新潟のええところ・うまいもん・ゼミナール」
 今月こそお早めにお申し込みください。

第3回「風は新潟から〜本物の食品を求めて」講師／岩佐十良

雑誌編集長が引越さずには
 いられなかった新潟の魅力とは。

大人気の新潟ゼミ、第3回は「ほんとうにおいしいもの、いいもの、身体にいいこと」を求めて、何と東京から南魚沼に雑誌の編集部を移転し、米づくりをはじめ農業生産法人まで設立して、この秋からは旅館経営にも乗り出した「自遊人」編集長の岩佐十良さんが講師です。

新潟に拠点を移してからの事業の幅は広がる一方で、雑誌づくりや米づくりに加え、厳選した無添加のオーガニック食品や天然素材の商品を開発し販売する新しいネットのショッピングモールも始めました。そして今秋、南魚沼市大沢山温泉に築150年の総けやき造の古民家を移築した「里山十帖」という、自分たちがこれだと思える料理、雑貨を販売する温泉宿の経営にも乗り出しています。

何が岩佐さんをそこまで動かせるのか彼の視点を通して、「内側」から見た新潟の魅力の語っていただきます。

10月、11月と受付開始早々に定員に達したため、多くの方に残念な思いをさせてしまい、ホンマに申し訳ありませんでした。今回は定員を20名増やして皆さまのご来場をお待ちしております。



●今月の授業
自遊人に学ぶ



いわさ・とる

1967年東京都生まれ。2000年に「食と旅」をテーマに雑誌「自遊人」を創刊。2004年、東京から南魚沼に編集部を移転し米作りを始め、「本物の食品」を販売するショッピングモール「オーガニック・エクスプレス」や農業生産法人「自遊人ファーム」などを立ち上げる。著書に「実録「米作」農業入門」（講談社）など。南魚沼市在住。

●第3回・第4回の会場は

梅田・富国生命ビル4Fの多目的スペース「アサヒ ラボ・ガーデン」。新潟ゼミで来場されたお客さんが常連になるという便利かつ快適空間です。イベント時以外は飲食可で、パソコン持参のビジネスマンや、授乳室利用のママも立ち寄っています。

☎06-6926-4070 11:00AM～8:00PM 日曜休
<http://www.asahigroup-holdings.com/research/labgarden/>



ますます面白い！
 新潟ゼミの講師陣

第4回 1.29(水)
 桂梅園治(落語家)

第5回 2.26(水)
 葉石かおり(利き酒師)
 ※会場は未定

「風は新潟から〜本物の食品を求めて」

日時／2013年12月18日(水)

6:30PM～8:00PM(開場6:00PM)

会場／アサヒ ラボ・ガーデン(大阪富国生命ビル4F)

受講料／無料(新潟県のお土産付き) 定員／50名

主催／新潟のええところ・うまいもんゼミナール事務局

後援／公益社団法人新潟県観光協会

協力／アサヒ ラボ・ガーデン、関西食ビジネス研究会

お名前・ご住所・電話番号を明記のうえ、下記までハガキ、ファックス、もしくはナカノシマ大学HP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添えください。
 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階「関西にいがたゼミ」受付係 FAX.06-4799-1341 ※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。定員に達し次第締切。



ナカノシマ大学 講義レポート



「ダイビルサロン1923」にて参加者のみなさんと。

11月13日(水) ナカノシマ大学2013年11月講座

「ダイビル本館 建設秘話ツアー」

@ダイビル本館

講師／勝山太郎(株式会社日建設計 設計部部長)

上田貴幸(ダイビル株式会社 建設・技術統括部課長)

生まれ変わった ダイビル本館に 島民読者が大集合!

先月開催されたナカノシマ大学「ダイビル本館 建設秘話ツアー」には、100人を超える参加者が集まった。こちらの講座は申し込み開始から大反響で、当初予定していた定員を大幅にアップ。それでもお断りした方が多数(ごめんなさい!)という大人気ぶりだった。

講座では、まず施主であるダイビル、そして設計を担当した日建設計の方々が一覧の概要や工事についてのお話を披露。歴史的な意匠を継承するため、途方もない時間と手間を惜しまなかったことがわかるエピソードの数々に、驚きのため息が漏れていた。その後はビル内をめぐるとツアーへ。

愛おしそうにビルを眺める参加者たちの姿は、ダイビルが大阪の人たちにとってどんな存在なのかを物語っていた。



開演は午後7時。ダイビルの壮麗な装飾は、夜にはライトアップされていっそう美しさを増していた。



ダイビルの上田貴幸さん、日建設計の勝山太郎さんが講義を担当。建設時の秘話が次々と明かされた。



旧ビルの外装に使われていたレンガ。本物の持つパワーは圧倒的。持ち上げるとずっしりとした重みが。



ツアーではまず4階のカフェテリアへ。こちらの壁や床の装飾にも旧ビルのレンガやタイルが使われている。



続いて2階へ移動。エレベーターホール上の回廊では、誰もが天井の壮麗さに目が釘付けになった。



最後は1階の「ダイビルサロン1923」。説明担当のダイビルの方は参加者たちの質問攻めに嬉しい悲鳴。

月

刊島民は、「月刊島民プレス」が発行元になっている。この「プレス」とは出版社や報道機関を意味する。その昔、グーテンベルクが発明した活版印刷では、インクを塗布した版を紙に押し付けて転写する。つまり「プレス」して印刷することから転じて、出版社や報道機関のことを指すようになった。

今ではあまり見られなくなったが、鞆公園のすぐ北で、この活版印刷を専門に行うのが「江戸堀印刷所」だ。活版印刷は紙に対して圧力をかけるため、表面に凹凸ができたリ、インクがかすれたりするのだが、それによって生まれる風合いを好む根強いファンがいる。2011年に開業すると、近所にデザインや建築関係の事務所が集まっていたことも手伝って、口コミで少しずつ広まっていった。

いかにも古めかしい印刷機を使って、名刺やショップカード、コースター、チラシなどを印刷する。手作りのようなあたたかみを感じられるからと、結婚式の招待状を作りたいという依頼もしばしばある。

「機械を前に、『もうちょっと、こ

活版印刷の 工房があつた。

をこういう風に」という声を聞きながら職人と一緒に作業を進めていると、お客さんと体験を共有できるという感じがします。印刷は思いを形にするもの。今はいろいろなやり方があります。活版印刷もその中の選択肢の一つにしてもらえれば」と、店長代行の宇賀神真弓さんは話す。

こ
これらの母体となっているのは、パンフレットなどを多く手がけ



1960年代に造られた西ドイツのハイデルベルグ社製の「プラテン」という活版印刷機。動くところを見るだけでも、今となっては貴重な体験。



江戸堀印刷所

活版印刷では、名刺サイズからA4サイズまでさまざまな印刷物に対応。注文は100枚以上。データを渡してから納品までは7～10日（時期によって変動あり）。デザインできない人でもイメージを相談すれば作ってもらえるので、まずは問い合わせよう。その他、オフセット印刷やデジタル印刷との併用などできる。☎06-4803-8106
<http://edobori-printing.jp/>

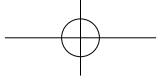


るあさひ高速印刷。三代目社長の岡達也さんが5年前に中古の活版印刷機を購入し、スタートさせた。「商業印刷で求められるのは効率性や美しさ、そして価格が安いこと。一方、そうではない特殊な技術や紙を使った印刷もずっとやってきたかったです。普通の印刷では仕上がりがだいたい想像できますが、活版の場合、機械を動かしながら何ができるかを考えられる良さが

ありますから」。

また、通りに面してガラス張りでの様子が見えるようになっており、印刷機が動いているとつい足を止めて見入ってしまう。実際、「ここは何屋さん？」と興味津々で入ってくる人もけっこういるそうだ。「ものづくりの現場を見てほしかったんです」と岡さん。活版印刷の良さを知ってもらうことや、街なかでものづくりの様子を発信していくことが、新たなビジネスのきっかけになる可能性に期待を寄せている。

折しもそろそろ年賀状の季節。島民読者諸君、例年とはちょっと違う手ごわりの年賀状を作ってみるのはどうだろうか。



OSAKA光のルネサンス2013

大阪市中央公会堂、大阪市役所南側のみおつくしプロムナードなどが光り輝くおなじみのプログラム。飲食ブースでの食事を楽しむ。

期間／12月15日(日)～12月25日(水)

点灯時間／5:00PM～10:00PM

※一部コンテンツは4:00PM～、雨天決行(一部プログラムは中止)

※プレビュー点灯12月1日(日)～14日(土)、クロージング点灯12月26日(木)～2014年1月19日(日)はみおつくしプロムナード点灯のみ(5:00PM～11:00PM)



トウミン月報

2013年12月1日発行

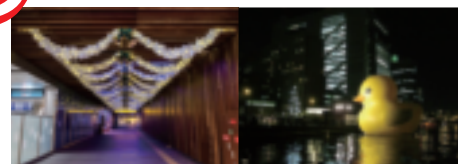
中之島の冬と言えば、イルミネーションを楽しむにしている人も多いだろう。今年は中之島をはじめ大阪市内各地で行われるプログラムと一緒に、新たに「大阪・光の饗宴2013」として開催される。

中之島で行われる「OSAKA光のルネサンス2013」と「御堂筋イルミネーション」をコアプログラムとし、さら

**エリアが二気に拡大！
「大阪・光の饗宴」を楽しもう**

に梅田、天満、大阪城、さらに難波など8つのエリアプログラムも時期を合わせて開催。それぞれに趣向を凝らした演出で大阪の街を照らす。

エリアプログラムのうち、昨年から開催されている「中之島ウエスト・冬ものがたり」は、ほたるまち港など中之島の西エリアを盛り上げる。メインとなる中之島ウォーターファンタジアでは、噴水と光・音楽が織りなすショーが繰り広げられ、玉江橋のライトアップとコラボレーションする。今年初めて開催される「大阪城3Dマッピング・スーパーイルミネーション」にも注目。



大阪城3Dマッピング・スーパーイルミネーション

3Dマッピングだけでなく、青い光が海のように波立つ「光のビッグブルー」、LEDの光が箱の中で自由自在に動き回る日本初の「光のキューブ」など、光のテーマパークとも言える空間が出現する。

期間／12月14日(土)～

2014年2月16日(日)

時間／5:30PM～10:30PM

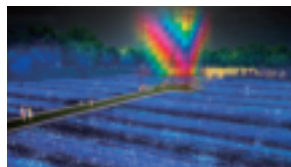
(特定日は11:00PMまで)

会場／大阪城西の丸庭園

料金／一般1,600円・小人950円

(特定日／一般2,000円・小人1,200円)

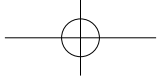
※4歳未満は無料



中之島ウエスト・冬ものがたり2013

中之島のウエストエリアで開催。メインプログラムの中之島ウォーターファンタジアの他に、「ラバー・ダック」も登場。ダイビル本館のライトアップや中之島フェスティバルタワー、京阪電車中之島駅のイルミネーションも。

期間／12月25日(水)まで ※メインプログラムは12月16日(月)から点灯時間／6:00PM～9:00PM ※ウォーターファンタジアの演出は1時間に4回、5分程度



中は「こんなに汚れていたのか!」と驚きながらも、丁寧に汚れを落としていた。
中之島ガーデンブリッジは、ANAクラウンプラザホテルの南側にあり、堂島川にかかる歩行者専用橋で、中之島に架けられた中では一番新しい。

みんなできれいにしよう!
「橋洗い」イベント



中之島には2つの川を合わせて23本の橋が架かっている。そのうちの1つ、中之島ガーデンブリッジで毎年恒例の「橋洗い」が行われた。

地元である北新地の飲食店関係者や地元企業のメンバー、行政担当者らが約200人集まり、デッキブラシでゴシゴシと橋を磨いていく。ふだんお世話になっているものの、橋そのもののことを気にすることはあまりない。参加者た

橋洗いは2005年から行われていて、今や秋の名物行事となり、参加者も増えつつあるそうだ。橋を渡る時、たまにはこの橋や道をきれいにしてくれている人がいることを思いやってみるのも良いだろう。(大迫力・本誌)



にっしー

もっと知りたい、
わたしの地元「西区」
第1号
11-12月 2013



西区の子どもたち
が参加した
「にっしー」の
イベント

公園
ラブ

この近所の子どもたちと
一緒に「にっしー」の
イベントに参加した
子どもたち。彼らは
「公園ラブ」の
イベントに参加し、
公園の魅力を
伝えるための
活動を行いました。

『にっしー』

配布に協力してくれる施設や店舗を募集中のこと。ご連絡
や問い合わせは西区役所総務課(☎06-6532-9683)まで。

西区が発行する『にっしー』。地元の魅力あるスポットや人、歴史を紹介しているのはセオリー通りだが、子育てや安全な暮らしという視点から街を見つめるところが特徴的だ。創刊号の特集は「公園ラブ」で、

「公園ラブ」で、西区役所や西区民センター、大阪市立中央図書館などの公共施設のほか、区内外の一部書店などで手に入れることができる。(大迫力・本誌)

お隣・西区の地元マガジン
『にっしー』創刊!

このところ一つのエリアに特化した地元マガジンが全国各地で増えつつある。島民の舞台である中之島のすぐ隣でも、つい最近新しくフリーマガジンが創刊された。大阪市の西区が発行する『にっしー』。地元の魅力あるスポットや人、歴史を紹介しているのはセオリー通りだが、子育てや安全な暮らしという視点から街を見つめるところが特徴的だ。創刊号の特集は「公園ラブ」で、

ナカノシマ大学や『大阪古地図パラダイス』でおなじみの本渡章さんが監修した古地図のパネル展が、淀屋橋odonaのアイ・スポットで開催中だ。テーマは「古地図で見る昔の大阪と文化的資産」。この場所になんで大阪市中央区に関わる地図が、江戸時代から昭和初期にかけて6点セレクトされている。

見て楽しむだけではなく、そこからどんなことが読み取れるかを教えてくれるのが本渡さん流。「古地図で描かれて

アイ・スポット

パネル展示「古地図で見る昔の大阪と文化的資産」

期間／12月20日(金)まで

時間／11:00AM～9:00PM

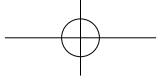
(土・日・祝～8:00AM)

入場料／無料

問い合わせ☎06-4866-6803



アイ・スポットで古地図のパネル展
本渡章さんがセレクト



華やぐ街に誘われて⁸

フェスティバルプラザの「大阪らしさ」をめぐる



本の西洋料理の歴史は横浜にあるホテルニューグランドに始まると言われます。

僕は神奈川県出身で、うちの父も料理人だったので、幼い頃から歴史についてよく聞かされていました。

その厨房で修業を積んだのが、「レストランアラスカ」の初代総料理長である飯田進三郎です。父は、もちろんそのことも知っていたし、ホテルオークラ東京の初代総料理長もアラスカ出身だと胸を張って語っていました。だから僕にとって飯田やアラスカは、雲の上のような存在だったんです。

飯田の功績を例えるなら、非常に優れた「翻訳家」だったのだと思います。西洋料理を日本へ持ち込んで、広めなければいけない。それも、今のように入材料も揃っていないければ、料理法も洗練されておらず、何より料理の完成形すらよくわかっていない時代に。少ない文献や情報を元に、自分の舌を頼りに完成形を想像して、翻訳する。その想像力と技術が圧倒的だったんでしょうね。

そうした感性の部分が、お客さんの顔を見て、その日の体調に合わせて料理を作ったという逸話につながるのだと思います。実はレシピがあまり残っていないんですが、「今日の完成は明日の未完成」という飯田の言葉を思えば納得できますね。



飯田進三郎の 目指したものを 受け継ぐということ。

談／永山康史（レストランアラスカ フェスティバルタワー 総料理長）



僕がこの店でやらなければいけないのは、飯田や過去の料理人たちが受け継いできた古典を一度見直してみることです。この店に対してお客さんが求めているのは、食材の旨みや料理の面白さです。そのアラスカ伝統の旨みを現代のアレンジで再構築する必要がある。例えば、平目のムニエルにはホワイトソースを使っていました。ホワイトソースは食べると満足感があって美味しいですよ。ただ、今はあまり重た

い料理は敬遠されるし、健康に気を使う方も多い。そこで、平目の骨だけでソースを作ることにしたんです。10ℓのダシをとって、それを200mlまで煮詰める。そうすると自然の旨みで胃にもたれない。少量のソースでも旨みは変わらないから、今までよりさっぱりと食べられるんです。

クラシックでも、今の料理人にしかできないクラシックに仕立てる。食べやすくなっているけど、満足感においては今まで通っていた人たちが感じていたのと同じであることを追究したい。それがこの店での新しい表現です。

ながやまこうじ

フランスで8年間修業。帰国後はリゾートホテルの総料理長などを歴任。尊敬する人物でもあった初代料理長・飯田進三郎の築いた伝統を学びたいと、2012年フェスティバルタワー店の総料理長に就任。

祝 祭 へ よ う こ そ。



<http://festivalplaza.jp/>

提供／株式会社 朝日ビルディング



レストラン アラスカ フェスティバルタワー

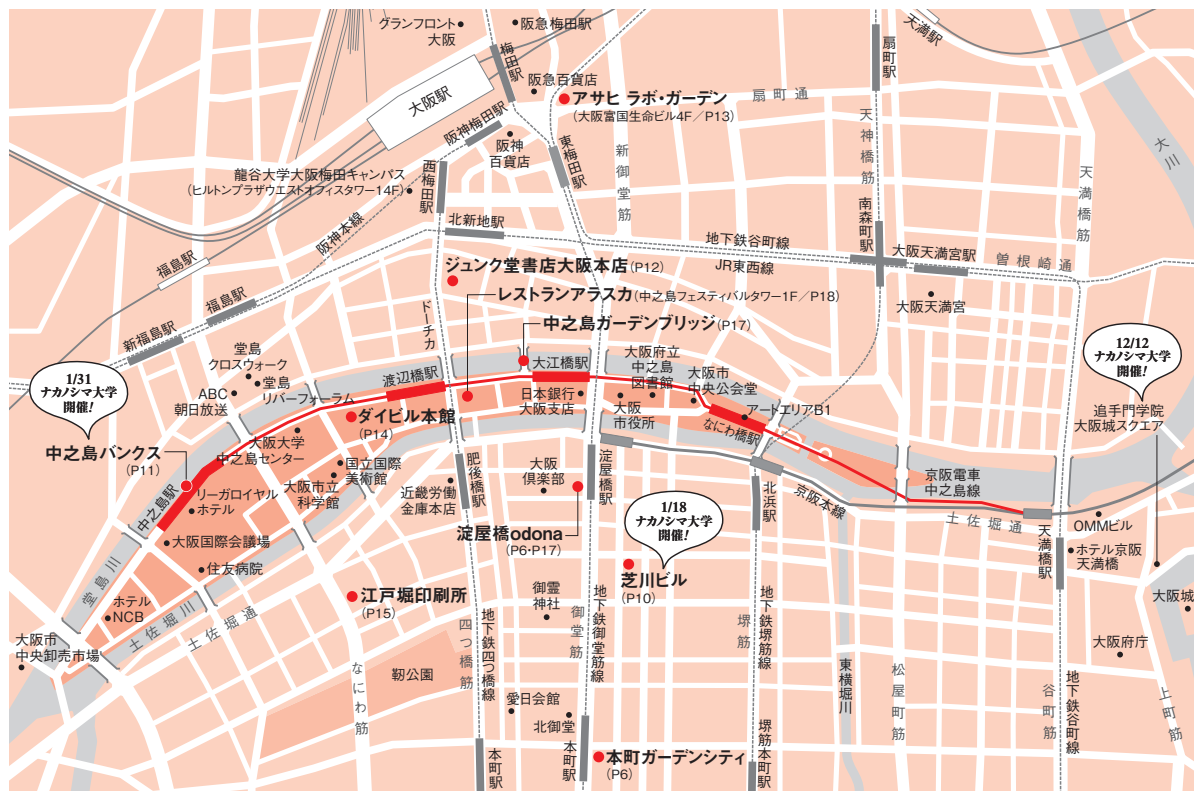
●中之島フェスティバルタワー 2F

昭和3年(1928)創業、大阪に西洋料理を根づかせた老舗。伝統的ながらも現代的な解釈が加えられた料理は一皿ごとにそのアレンジを楽しみたい。ランチは3種のコース(2,500円～)のほか、カレーをメインにしたセットも。ディナーは4種のコース(6,800円～)とアラカルトもあり。

☎06-6222-1800 11:30AM～2:30PM(LO2:00PM)
5:30PM～11:00PM(LO9:45PM) 不定休

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリスタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 〔書店〕旭屋書店 梅田地下街店／カベラ書店／紀伊国屋書店 梅田本店／紀伊国屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／天牛書店 大津橋店／ブックファースト 梅田店／ブックファースト 淀屋橋店／文芸堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店
- 〔公共施設・大学関連施設など〕アイスポット／朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪城スクエア／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス
- 〔店舗・医院など〕アリアスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前料理 志津可／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／大西洋服店／OOO(オー)／カセッタ／喫茶センター／喫茶SAWA／クラシイート中之島／黒門さかえ／コモカフェ／サトウ花店 中之島本店／ザ・プロディ／シアトルベストコーヒー新聞電ビル店／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャーノ／バスターレ／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイルハウス／ミニジロー／宮 崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／ラックカーニャ／LES LESTON
- 大阪市内その他 〔書店〕伊勢屋書店／大阪書店／紀伊国屋書店 京橋店／なんばミヤタ／福島書店／柳太店／ループル書店 〔公共施設・大学関連施設など〕大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館／川口基督教会 〔店舗・医院など〕あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御舟かもめ／Cabo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワンナ／バルビコ／ホテル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学運堂 フレスト店／Books 呼文堂／水嶋書房 千早はもろ店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画広報・社会学連携事務室／大阪大学 21世紀環境 堂／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・ジンプソン／百録／奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 海の向こうを目指して。

明治から昭和初期にかけての大阪は、港を中心にした発展を見据えていた。
造船や海運など中之島にゆかりのある企業にまつわる壮大なストーリー。

●『月刊島民』vol.66は2014年1月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行／月刊島民プレス
若狹健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 大迫 力 江口由夏(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

こころまち つくろう
KEIHAN
京阪電車

中之島けい子
嘉祥窯 陶芸教室

ゆっくり、じっくり、が
コツですって。

陶芸に挑戦!

チャレンジ!
おけいはん

おけいはん、 京・清水やきもの入門

京阪電車の清水五条駅から、味わいあるやきもの世界へ。

おけいはん。

◆ 嘉祥窯 陶芸教室
かしようがま
風情ある産寧坂の窯元で、
ろくろを使った器づくりを体験!



◆ 美器工房(朝日堂)
ひき
飲み物の注文もOK! じっくり
じっくり名作をおりあげて。

◆ 阿古屋茶屋
お茶漬けバイキングで約25種類の
お漬け物とその器を堪能!



おけいはんが
清水五条で陶芸に挑戦!
実況ムービーや
エリア紹介マップを
web上でご紹介!!

チャレンジおけいはん

@c.okeihan

チャレンジおけいはん

検索

